

令和6年 第866回小浜市教育委員会定例会 会議録

開催日時	令和6年4月19日(金)		開会 15:30 閉会 17:00		
開催場所	市庁舎4階401会議室				
出席委員	窪田教育長	上田職務代理者	村上委員	桂田委員	坂下委員
欠席委員					
事務局	谷教育部長	畑田教育部次長	日比野生涯学習 スポーツ課長	松宮主幹	大山主幹
	井上課長補佐	赤崎課長補佐	田中課長補佐	竹内課長補佐	
	安田企画主査	大橋指導主事			
傍聴者					
会 議				会議の結果	
<p><b>委員会開会</b></p> <p>(教育長) 宣言および開会あいさつ</p> <p>市内小中学校は4月8日に入学式を執り行い、無事新しいスタートが切れたとの報告を受けている。教育委員会では、昨年度からの重要課題に加え、今年度は特に学校DXの推進を最重点課題に掲げ、取り組みを進めてまいりたいと考えている。委員の皆様のお力添えをお願いする。</p> <p><b>1 会議録の承認について</b></p> <p>第865回教育委員会定例会会議録 《承認》</p> <p><b>会議録署名人2名の選任</b></p> <p>第866回教育委員会定例会会議録署名委員選任 《村上委員、坂下委員》</p> <p><b>2 報告</b></p> <p>・報告第7号 諸般の報告 令和6年3月18日～令和6年4月18日          行事予定 令和6年4月19日～令和6年5月31日 《承認》</p> <p>上田職務代理者 スポーツ協会の総会に市長や教育長に出席していただけるとありがたい。</p>					

事務局 スポーツ協会の会長と相談して検討させていただく。

坂下委員 4月15日に開催された第1回学校教育DX推進本部会議の概要を説明いただきたい。

事務局 今年度、小浜市教頭会を中心とした組織を構築して学校DXを進めるにあたり、教育長からその方針等について説明をされた。また本日は、組織の中核を担っていただく4名に集まっていただき、今後の進め方について協議した。

教育長 この件については、後ほど教育長報告で詳しく述べさせていただく。

- ・報告第8号 令和5年度3月補正（専決）予算の要求について 《承認》

### 3 教育長報告

#### ・学校DXの推進について

今年度は学校DXの推進を最重点課題に掲げ、DX推進組織を構築した。核となる「学校DX推進本部」は小浜市教頭会を母体とし、教務主任、事務職員、研究主任、ICT主任の代表各1名で組織する。その中で特にキーパーソンとなるのが教頭会である。また学校DX推進本部の下に、教頭、教務主任、事務職員で構成する「校務DX部会」と、教頭、研究主任、ICT主任で構成する「授業・研修DX部会」を設けた。これらの組織で小浜市の学校DX推進の中核を担っていただき、そこで得たものを各学校に還流しながら学校ごとに規模や実情に合わせてDX推進組織を立ち上げ進めようとするものである。校務・授業・研修が相似形で進んでいくよう取り組みを進めていきたい。既に、第1回学校DX推進本部会議を4月15日に開催した。また本日は本部の中でも中核を担っていただく4名に集まっていただき、それぞれの部会のリーダーを決め、今年度の取り組みについて協議した。今年度は校務・授業・研修の在り方やシステムを少しずつ変えていく。学校DXはデジタルイゼーション、デジタライゼーション、DXの3つのステップのうち、第三段階まで進んで初めて変革が実感できるといわれている。GIGAスクール構想から3年以上が経ち、1人1台端末は普及したが、その活用については自治体間格差が広がっているといわれて

いる。また、学校間や学級間においても格差がみられる。小浜市では、今年度まずは実態調査を実施して全体の実態を把握し、PDCA サイクルでは無く実践(D)から始める中で、学校DX基本計画と推進計画を含めた3年間のロードマップを策定し、全教職員が共有できるようにしていきたい。

また、本部会議や部会会議は数多く持ってほしいと伝えているが、一堂に会するのではなく、オンライン会議や、クラウドを活用しチャット機能を使って意見交換するなど、学校で子どもたちが行うDX授業と同じかたちで会議を進めていってほしいと話をした。

授業については、小浜市には子どもたちが自ら学んでいく授業作りである「3S学習」の実践を40年近く積み重ねてきているという強みがある。DXが目指しているのも子ども主体の学びであり、3S学習とDXは親和性が高いと考えている。先生方には、3S学習をアナログからデジタルに置き換えることを楽しみながら実践していただきたいと伝えており、具体的に実践する内容を絞り、全ての学校が取り組めるよう共通理解を図りたい。

#### 4 その他

村上委員 今年度、県費で小学校と中学校各1校に不登校関係の支援員が配置されたと聞いているが、不登校の人数が多い他校への配置はできないか。

事務局 県の「校内サポートルーム支援員」は、今年度小浜市には2校に割り当てられており、学校へ登校して教室以外の場所で学習する児童生徒をサポートする役割を担うものであるため、別室登校している児童生徒を支援するために配置した。

村上委員 大変ありがたい事業だと思う。ただ、学校へ登校できない子どもたちのサポートも大変重要だと感じている。民生委員やスクールソーシャルワーカーなど、様々な方のお力を借りながら不登校の子どもを支援していただきたい。

教育長 子どもたちが学校へ登校し、友人や教員、地域の方など多くの人と触れ合う中で成長していくことが重要である。そのために、教員が子どもたちが行きたくなる学校を作っていくことが大事である。一方で、不登校の子どもたちは全国的に増加しており、様々な原因やきっかけで学校へ行けない子どもたちにも学びの保障、進路の保障をしていかなければならない。そのような状況の中で様々な支援

の取り組みが進められており、県の校内サポートルーム支援員についても今年度拡充された取り組みであると捉えていただきたい。また、国の制度である夜間中学や、民間企業が立ち上げているフリースクールなど新たな支援が広がってきている。しかし、学校へ行かなくてもよいのではなく、多くの人と切磋琢磨しながら成長していくのが一番だと考えており、外部関係機関とも連携しながら取り組みを進めていることをご理解いただきたい。

### 委員会閉会

(教育長) 宣言

この会議録が真正であることを確認して署名する。

小浜市教育委員会議事録署名委員

委員 村上 郁子 教育委員

委員 坂下 貴洋 教育委員